



# 留学生と語り合う No. 98

## RKKニュース (2025年 新年号)

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK) Relationship and Kindness are the Kings of Peace

### 新年を迎えて

理事長 萩原 敦

約3年間のコロナ禍による活動制限から解放され、恒例のRKKフェスティバルは、一昨年に引き続き、開催することができました。日本語スピーチ大会も文化祭も、あらたな様相を取り込み、約60人が参加され、フェスティバルを楽しんでいただきました。また、RKK創立25周年記念事業の「留学生50人の声」プロジェクトは、60人の留学生からの寄稿文を掲載した記念誌が無事発行され、留学生と市民による交流座談会も意義深いイベントとして良き評価をいただきました。これらの活動は、本年度の重点活動目標の「みんなの参加でRKKを盛り上げよう！」の実践であり、皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

この記念誌「留学生50人の声」からは、留学生支援のニーズの変化をうかがい知ることができました。以前は、日本語学習支援と日本文化の紹介が主体でしたが、昨今は日本人会員との1対1の交流によって「留学生との絆」が深まり、「心の支え」、「癒やし」にもなっているようです。また、世間では、家庭と職場の他に喫茶付きブックストアなど第3の場所「Third Place」に人気があるそうです。留学生も大学と留学生宿舎の往復だけの生活ではなく、第3の場所を求める傾向が目立ってきているようです。

RKKの交流活動が留学生にとって第3の場所になることが今後の方向とも思えます。

「Make the most of your Off-Campus life」

### Welcome the New Year

Chairman Atsushi Hagiwara

Freed from the restrictions on activities caused by the COVID-19 pandemic that had lasted for about three years, the annual RKK Festival was able to be held again, as it was the year before last. Both the Japanese speech contest and the cultural festival took on new aspects, and about 60 people participated and enjoyed the festival. In addition, the "Voices of 50 International Students" project, a commemorative magazine containing contributions from 60 international students, was successfully published as part of the RKK 25th anniversary commemorative project, and the roundtable discussion between international students and local residents was also well received as a meaningful event. These activities are the implementation of this year's key activity goal of "Let's liven up RKK with everyone's participation!", and we are deeply grateful for your cooperation.

From this commemorative magazine, "Voices of 50 International Students," we were able to see the changes in the needs for support for international students. In the past, the main focus was on Japanese language learning support and introducing Japanese culture, but in recent years, one-on-one interactions with Japanese members have deepened the "bonds with international students" and have also become a source of "emotional support" and "healing." It also seems that in addition to home and work, "third places" such as bookstores with cafes are becoming popular. There is also a noticeable trend among international students to seek out a "third place" rather than simply going back and forth between university and their accommodation.

It seems that the future direction will be for RKK's exchange activities to become a "third place" for international students.

“ Make the most of your Off-Campus life ”

# RKK 創立25周年記念事業

2024年がRKK創立25周年を迎えるにあたり、通常総会で会員の総意として創立25周年事業の実施が承認されました。記念事業として、・創立25周年記念誌「留学生50人の声」の発行、・留学生と会員との「交流座談会」を創立25周年記念事業「留学生の50人の声」プロジェクトとして実施しました。この記念事業に対し（公財）中島記念国際交流財団の助成（留学生地域交流事業）を受けることができました。（記念事業「留学生の50人の声」プロジェクトチーム リーダー 畔取 孝）

## RKK創立25周年記念誌「留学生50人の声」の発刊にあたり

記念事業「留学生の50人の声」プロジェクトチーム 畔取 孝

本記念誌の発刊にあたり、寄稿された留学生やチューターの皆さま、また原稿募集にご尽力いただいた各地区の皆さまに対し厚く御礼申し上げます。

創立25周年記念事業プロジェクトの一環として記念誌「留学生50人の声」の発行を進めていくことになりました。また、記念誌作成については、昨今の留学生が求める支援に変化が生じていることから、改めて支援のあり方を再考するため、留学生からの「RKKに期待すること」を大テーマとすることとしました。

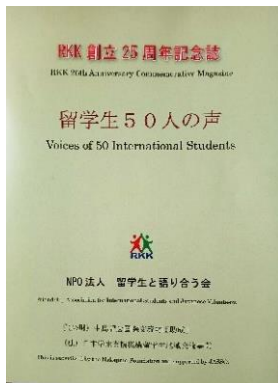
記念誌制作にあたっては、まず各地区スタッフを通じて、各チューターに担当留学生への声かけのお願いをいたしました。ただ、コロナ禍後の現役留学生数の大幅減少があり、50人の応募があるかは確信が持てませんでした。しかし、多くの方々のご協力を得ることで、最終的には60人の寄稿文の提出があり、12月4日に記念誌「留学生50人の声」が完成をいたしました。

寄稿者の内訳を見ると多くの元留学生の参加もあり、さらに寄稿内容を拝読しても会員の皆さまと留学生との交流が卒業後もしっかりと心に残っていることを実感した次第です。

記念誌は、『(Ⅰ) RKKへの期待：「日本語支援」、「就活支援」、「日常生活への支援」、「国際交流・相互理解」、「学業、研究への支援」(Ⅱ) RKKでの体験・感謝』の構成で編集されていて、留学生からの貴重な声が記載されています。記念誌をぜひ一読の上、新たな気持ちで留学生と語り合ってもらいたいと願っております。皆様に配布しました当記念誌を是非お読みいただければと思います。

ちなみに、RKK創立5周年時には記念誌「留学生70人の声」を発行しております。それから20年、時代も移り、留学生の環境や考え方などの変化が見られます。この記念誌がRKK活動を考える一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本記念事業が（公財）中島記念国際交流財団からご支援をいただいたことに感謝申し上げます。



## 「留学生と市民との交流座談会」開催について

記念事業「留学生の50人の声」プロジェクトチーム 細井 達朗

「留学生と市民との交流座談会」をRKK創立25周年記念誌に寄稿して頂いたRKK留学生(現役)3人と元留学生(社会人)2人及び市民(RKK会員)11人の参加とJASSO職員1人を傍聴者に迎えて、2024年12月8日、かながわ県民活動センターにおいて開催しました。そこでは、RKKに対する「留学生からの期待」と題し、テーマを日本語の習得、・日本での生活、・交流と相互理解、・就職活動と仕事として、両サイドの参加者が日頃感じている思いについて、話し合いが行われました。ただ、この交流座談会に先立って記念誌が発刊されたわけですが、これは留学生からの一方的な性格を持っているためこの記念誌発刊に加えて、更に交流座談会を実施して留学生と市民との双方向による”語り合う会”を開催することとしたものです。



話題の中、最初にどうして留学先として日本を選んだかについて問われ、数人からは子どもの頃の日本のアニメ体験が挙げられた中、ある留学生は日本が母国と文化面で似ておりバイアス(偏見)がないとか、他国に比べて奨学金の支給条件が良かったなどの現実的な発言がありました。

また、生活面については、大学内には相当数の日本人がいるものの、なかなか友達付き合いまで発展しにくいとの意見が意外にも多く、RKKチューターとしての役目を再認識するものでした。理由としては、日本人特有の遠慮心や物ごとをはっきり伝えてもらえないといったことがあるようです。その他、日本に来た当初に困ったことは公的機関(役所や銀行等)に一人で行かざるを得ず言葉も通じ難いことなどが挙げられました。

仕事・就職に関する話題では、母国と日本とでは求人側の考え方が異なっており、母国では求職者の知識評価を重視するのに対し、日本では学力以外に本人の性格や態度なども広く対象になる点、また、母国ではJOB型(スキル重視)に基づく通年採用が主流なのに対し、日本ではメンバーシップ型に基づく長期採用がベースになっている事などの違いがあり、留学生としては、それらの違いに注目したサポートを期待しているとの意見がありました。当交流座談会の詳細については、“RKK交流座談会報告書”(RKKホームページに掲載)をご覧ください。と思えます。

以上、留学生と市民との交流座談会が、和やかにも活発な雰囲気の中で行われました。

### 留学生と行く社会見学

#### Let's go on a social tour

見学先；・国会議事堂、・警視庁本部／・Diet Building、・Metropolitan Police Department

見学日；2025年3月5日(水)／Mar. 05,2025 Wed.

参加申込み；2月9日(日)まで／Application Deadline；Feb.09,2025 Sun.

参加申込み・問合わせ先；[rsknk0227@gmail.com](mailto:rsknk0227@gmail.com) (永作)

詳細は、<http://rkk.world.coccan.jp/> [「npo rkk」で検索可] をご参照。





# RKKフェスティバル

毎年秋、恒例のRKKフェスティバルを2024年11月23日（祝・土）、かながわ県民活動センターにて開催しました。今回も留学生による日本語スピーチ大会および文化祭を実施し、留学生との交流を深めました。“RKKフェスティバル2024写真集”（RKKホームページ掲載）もご参照ください。

## 第17回日本語スピーチ大会開催について

日本語支援グループ 畔取 孝

2024年第17回日本語スピーチ大会を11月23日に開催いたしました。開催に際しては、萩原理事長並びに山田氏（元横浜国大教授）のご挨拶をいただきました。当日は多くの来場者があり盛況の中でスピーチ大会を開催できました。また、スピーチの留学生は、中国出身の方が3人、インドネシアとベトナムの方がそれぞれお1人の3カ国となりました。テーマは自由として7分程度でスピーチしていただき、日頃の日本語学習の成果を発揮してもらいました。さらに、それぞれのチューターの皆さまにも参加をお願いし、留学生のスピーチ前に紹介をしていただきました。



今回は全員のスピーチ終了後の講師による講評はありませんでした。それでも、会員の方からの質問とその質問に関する発表者からの回答で、笑いや拍手もあり、大いに盛り上がりを見せてもらえたと感じています。今年の日本語スピーチ大会の発表者選出方法は、従来とは変えて各地区からの応募による形式を採用しました。しかし、締切りが過ぎてもなかなか応募者が集まらない中、マッチングご担当者、その他の会員の方々のご協力により、3カ国5人の発表者が揃いました。今までの参加者数よりも少なくなりましたが、皆様のご協力なくしては、開催は難しかったと痛感しています。改めて、会員の皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

日本語スピーチ大会の発表内容については、昨年に引き続き、スピーチをした留学生とチューターの了解をいただき、5人の留学生によるスピーチの動画をRKK会員および留学生に配信しました。ぜひ、留学生たちの頑張っている姿をご覧になっていただきたいと思います。

## 第9回文化祭が開催されました

文化・ファミリー交流グループ 徳屋 英生

11月23日午後、かながわ県民センターにおいて50余人の参加者を得て開催されました。

日本人会員による絵画、写真、似顔絵、川柳等の力作が展示され参加者の目を楽ませてくださいました。人形、民芸品などの展示は留学生の興味を引き、日本伝統文化の紹介になりました。



ワークショップでは、今年度の新たな試みとして、中国語、ベトナム語学習グループによる漢詩の紹介、また、アオザイを着てのベトナム事情の紹介等がありました。

伝統文化の紹介としては、書道、男児、女児の伝統遊戯、福笑いとバラエティに富み多くの参加者が童心に返って楽しむことができました。松本さん、古谷さんによる着付けで3人の留学生が着物を体験し楽しい思い出になりました。

日本文化紹介のワークショップに続いて、5人の留学生による母国紹介が行われました。インドネシアのハジリヤンティ ヤタマルさん、パラグアイのコントレーラ イブキ サクラ アマンダさん、コートジボワールのフォファナ ヤクバさん、フィリピンのギリヤン メディナさん、

バングラデッシュのサンジョイ कुमारサルマさんで比較的なじみの薄い国

の留学生もいて、そのプレゼンテーションは興味を引きました。彼らの祖国に対する愛、伝統文化のすばらしさ、自然の美しさなど多くの参加者が感銘を受けました。



## 特別寄稿

### 留学生との交流ボランティア活動の重要性

横浜国立大学名誉教授 池田 龍彦

今年は「不確実な年」になるとの予測がマスコミを賑わしています。経済面では不確実かも知れませんが、人的交流の重要性は不変でRKKの活動がこれまで同様に社会に大きく貢献するのは間違いありません。1995年1月の阪神淡路大震災の際の援助活動がボランティア元年と言われていますが、その直後にRKKの活動が開始され、留学生との交流を通しての社会貢献を始めた慧眼に敬意を表します。



私は29年間運輸省で国内外の港湾整備の仕事を行った後に、2000年7月に横浜国立大学に移り13年にわたり国際開発やインフラ整備をテーマに教育研究を行いました。その間、英語による留学生教育を行うとともに、日本語を学んだ留学生に対しては日本語で教育を行いました。当時日本語で教育を受ける学生は私費留学生がほとんどで、中国人、韓国人が大半を占めていましたが、ベトナム、ネパール、ウクライナなどからの留学生も多かったです。

これらの留学生とともにRKKの活動で最初にお世話になったのは2001年夏の工場見学でした。RKKが設立されて間もなくの活動に参加して、留学生が地域の善意ある方々と温かく触れ合い、スケールの大きい工場と一緒に興味深く見学する経験を通して、学生達が心から楽しみ感謝している姿を見て感動したことを思い出します。その後、私の米国留学時代に経験したEnglish in Actionといういわゆる「家族交流プログラム」で恩恵を受けたことをベースに提案した結果、RKK版「ファミリー交流」プログラムを実施し、多くの留学生達の日本社会や文化の理解促進を手助けして下さったことに感謝申し上げます。大学教育ではできない分野を、RKK会員のみなさまが努力して下さることで、留学生に対する教育効果が上がると考えます。

横浜国立大学を退職した後は放送大学に8年奉職して2021年に公職をリタイアしましたが、大学教員にな

って20年間に留学生の位置づけが大きく変わりました。当初は「留学生に学問・技術を身につけさせ国に返す」だったのが、最近は「留学生なくして大学院教育は成り立たない」であり「卒業後・大学院修了後に日本国内で働く」留学生が多くなっています。人口減少が加速する日本社会において、日本の教育機関で教育を受けた留学生が日本社会に溶け込み、日本の社会や文化・習慣を敬う外国人が日本社会の中で重要となってきています。RKKのような留学生との交流活動が広がってほしいと思います。

RKKのますますのご発展を祈念します。

## 留学生からのたより

### 困難な留学生活が私にもたらした成長

横浜国立大学大学院 Le Van Chung (ベトナム)



私は2020年12月に来日し、日本語学校に入学した。当時、世界中でコロナ・パンデミックが広がり、日本での留学生活がどれほど困難になるのか、ある程度覚悟していた。しかし、実際に直面した留学生活の厳しさは、私の予想をはるかに超えるものであった。

日本語がほとんど話せない状態で始まった留学生活は、挑戦の連続であった。学費や生活費を稼ぐために徹夜でアルバイトをし、そのまま翌朝学校に通う日々が続いた。私の留学の目的は修士課程への進学であり、そのためには日本語能力試験N1の合格や入学試験の準備に全力を注ぐ必要があった。しかし、新しい言語で専門的な知識を学ぶ難しさ、勉強に集中したくも夜通しの仕事に行かなければならない現実、そして長期間の睡眠不足が重なり心身ともに限界を感じる日々でした。振り返ると、その時期は間違いなく人生で最も過酷な時間だと言える。それでも、この困難を乗り越える中で得た経験は、私を大きく成長させ現在の私を支える原動力となっている。

日本での最初の年々の困難を乗り越える過程で、私の考え方や行動は成熟した。特に「明確な目標を設定し、それに向かって着実に行動すること」の大切さを学んだ。日々の努力が少しずつ成果として表れるのを実感すると、それがさらなる努力への強いモチベーションとなった。

日本語学校時代に培った適応力や計画性は、大学院生活において大きな支えとなった。奨学金を受け給しつつも、多くの時間をアルバイトに費やす中で、多忙な生活を乗り越えながら修士論文を早めに完成させ、就職活動にも集中することができた。また、日本語だけでなく日本の社会や文化を深く理解するために、積極的にRKKにも参加し、多くの貴重な経験を積むことができた。こうした経験を通じて、「どんな困難に直面しても本気で努力すれば、必ず乗り越えられる」という自信を持つに至った。

私費留学の生活は私だけでなく、多くの留学生にとって決して容易ではない。特に初期の段階では、多くの試練が待ち受けている。しかし、その試練に立ち向かい、乗り越えることで得られる成長は、楽な道を選ぶ人々には得られないものだと思っている。私は、2025年の新年を迎え、日本での生活が5年目となる。この数年間を振り返ると、日本で得た喜びや興味深い体験だけでなく、困難な経験にも心から感謝して



いる。それらは、<sup>しょうらい</sup> 将来の<sup>もくひょう</sup> 目標に向かって<sup>すすむ</sup> 進むための<sup>たし</sup> 確かな<sup>きばん</sup> 基盤となり、<sup>こんなん</sup> 困難から<sup>え</sup> 得た<sup>せいちょう</sup> 成長こそが<sup>どりよく</sup> 努力の<sup>せい</sup> 成果であると<sup>かくしん</sup> 確信している。

## 仕事してからはじめて分かったこと

元大阪大学大学院 <sup>ちやうしもう</sup> 張子萌 (中国)



まずは、<sup>ぜんたい</sup> 全体を見る<sup>ちから</sup> 力です。<sup>がくせいじだい</sup> 学生時代は、<sup>じこかんり</sup> 自己管理して<sup>けいかくどお</sup> 計画通りに<sup>ものごと</sup> 物事を<sup>すす</sup> 進めれば<sup>もんたい</sup> 問題ないと<sup>かんが</sup> 考えていました。そこで、<sup>にゅうしゃ</sup> 入社した<sup>あとも</sup> 上<sup>じょうし</sup> 司に<sup>まか</sup> 任せられた<sup>かだい</sup> 課題だけを<sup>せいいつぱい</sup> 精一杯に<sup>と</sup> 取り組んでいます。でも<sup>じぶん</sup> 自分の<sup>task</sup> タスクだけでなく、<sup>ぜんたい</sup> 全体を<sup>み</sup> 見てくださると<sup>せんぱい</sup> 先輩から<sup>advic</sup> アドバイスを<sup>もら</sup> いただきました。<sup>ぜんたい</sup> 全体の<sup>じょうきょう</sup> 状況を<sup>はあく</sup> 把握し、<sup>たにん</sup> 他人を<sup>さぽ</sup> サポートして、<sup>とき</sup> 時には<sup>しゅうい</sup> 周囲を<sup>まきこ</sup> 巻き込んで<sup>もんたい</sup> 問題を<sup>かいけつ</sup> 解決する<sup>ちから</sup> 力が<sup>もと</sup> 求められます。

<sup>ふたつめ</sup> 二つ目は<sup>ぎやうむ</sup> つまらない<sup>たの</sup> 業務から<sup>たのしみ</sup> 楽しさを見つける<sup>こと</sup> ことです。<sup>ちやくにん</sup> 着任した<sup>ばかり</sup> の<sup>とき</sup> 時、<sup>さまざま</sup> 様々な<sup>ぎやうむ</sup> 業務を<sup>ひとり</sup> 一人で<sup>でき</sup> できるようになって、<sup>ワクワク</sup> ワクワとした<sup>まいにち</sup> 毎日を<sup>すご</sup> 過ごしていました。その後、<sup>じょじょ</sup> 徐々に<sup>ぎやうむ</sup> 業務に<sup>な</sup> 慣れて、<sup>もっと</sup> もっと<sup>creative</sup> クリエイティブな<sup>しごと</sup> 仕事ができる<sup>とおも</sup> と思っていましたが、<sup>じっさい</sup> 実際には<sup>routine</sup> ルーティンワークが<sup>おほ</sup> 多いです。そこで、<sup>なか</sup> その<sup>ちゆうりつ</sup> 中で<sup>わる</sup> 効率が<sup>悪い</sup> 悪い<sup>ぶぶん</sup> 部分や<sup>かいぜん</sup> 改善の<sup>よち</sup> 余地がある<sup>しごと</sup> 仕事を見<sup>み</sup> つけ出す<sup>こと</sup> ことなど、<sup>つまらない</sup> つまらないと<sup>かん</sup> 感じる<sup>こと</sup> の<sup>なか</sup> 中に<sup>課題</sup> 課題を見<sup>み</sup> つけ、<sup>そこ</sup> そこから<sup>たのしみ</sup> 楽しさを見つける<sup>のも</sup> のも<sup>だいじ</sup> 大事だ<sup>おも</sup> と思います。

最後は<sup>しっぱい</sup> 失敗を<sup>おそ</sup> 恐れずに<sup>ちやうせん</sup> 挑戦<sup>すること</sup> することです。<sup>がくせいじだい</sup> 学生時代は、<sup>しっぱい</sup> 失敗<sup>すること</sup> することで<sup>しゅうい</sup> 周囲の<sup>しんらい</sup> 信頼を<sup>うしな</sup> 失う<sup>こと</sup> の<sup>ではない</sup> ではない<sup>かんが</sup> かと<sup>mistake</sup> 考え、<sup>ミス</sup> ミスを<sup>さ</sup> 避ける<sup>こと</sup> が<sup>さいゆうせん</sup> 最優先<sup>です</sup> です。特に、<sup>かいしゃ</sup> 会社で<sup>ひた</sup> 日々の<sup>はたら</sup> 働く<sup>すがた</sup> 姿は<sup>ひやうか</sup> 評価と<sup>みつ</sup> 密接<sup>つな</sup> に<sup>繋が</sup> 繋がっている<sup>ので</sup> ので、<sup>ミス</sup> ミスが出<sup>で</sup> ないように<sup>がんば</sup> 頑張ろう<sup>とおも</sup> と思いました。だが、<sup>しゃかいじん</sup> 社会人<sup>にな</sup> になってからは、<sup>しっぱい</sup> 失敗を<sup>おそ</sup> 恐れずに<sup>ちやうせん</sup> 挑戦<sup>すること</sup> することの<sup>たいせつ</sup> 大切さを<sup>まな</sup> 学びました。特に<sup>しんじん</sup> 新人の<sup>うち</sup> うちが<sup>わから</sup> 分からない<sup>こと</sup> が<sup>いっぱい</sup> いっぱい<sup>あ</sup> あって、<sup>わか</sup> 分かる<sup>ふり</sup> ぶりをして<sup>ぎやく</sup> 逆に<sup>まわ</sup> 周りの<sup>ひと</sup> 人に<sup>めいわく</sup> 迷惑を<sup>か</sup> かける<sup>こと</sup> ことになり<sup>ます</sup> ます。むしろ<sup>せっきよくてき</sup> 積極的に<sup>と</sup> 問いをして、<sup>challenge</sup> チャレンジ<sup>すること</sup> することが<sup>ひやうか</sup> 評価される<sup>ばめん</sup> 場面が<sup>おほ</sup> 多いと<sup>かん</sup> 感じて<sup>います</sup> います。挑戦<sup>し</sup> しなければ、<sup>えいえん</sup> 永遠に<sup>あた</sup> 新しい<sup>skill</sup> スキルや<sup>ちしき</sup> 知識を<sup>み</sup> 身につ<sup>つけ</sup> つけられない<sup>から</sup> からです。

## 日本語スピーチの初体験

横浜デザイン学院 <sup>おうけん</sup> 王乾 (中国)



<sup>せんげつ</sup> 先月の<sup>げじゆん</sup> 下旬、<sup>わたし</sup> 私は<sup>しゅさい</sup> RKKが<sup>spee</sup> 主催された<sup>ch</sup> スピーチ大会に<sup>たいかい</sup> 参加<sup>さんか</sup> しました。<sup>いぜん</sup> 以前<sup>にほんご</sup> 日本語<sup>が</sup> 学校時代<sup>には</sup> に<sup>スピーチ</sup> スピーチ大会が<sup>たいかい</sup> 行<sup>おこな</sup> われましたが、<sup>ひと</sup> 一つの<sup>クラス</sup> クラスの<sup>なか</sup> 中で<sup>えら</sup> 選ばれて<sup>はっぴよう</sup> 発表<sup>した</sup> した<sup>だいひょうしゃ</sup> 代表者<sup>ひとり</sup> は<sup>ひとり</sup> 一人のみ<sup>でした</sup> でした。落ちた<sup>わたし</sup> 私は<sup>きこ</sup> 聞き手として<sup>かんきやく</sup> 観客席<sup>すわ</sup> に<sup>すわ</sup> 座って、<sup>はっぴよう</sup> 発表者<sup>の</sup> の<sup>すがた</sup> 姿に<sup>あこが</sup> 憧れる<sup>しか</sup> しか<sup>な</sup> なかった。今回の<sup>スピーチ</sup> スピーチ大会では、<sup>やっ</sup> やっと<sup>せんしゅ</sup> 選手として<sup>stage</sup> ステージ<sup>に</sup> に<sup>あ</sup> 上<sup>りました</sup> りました。チャンスを<sup>chance</sup> しっかり<sup>つか</sup> 掴もう<sup>とおも</sup> と思いました。

<sup>はっぴよう</sup> 発表内容<sup>という</sup> のは<sup>らいにち</sup> 来日後の<sup>りゅうがく</sup> 留学生活<sup>かん</sup> に関して、<sup>がいこくじん</sup> 外国人の<sup>わたし</sup> 私は<sup>ちが</sup> 違いに<sup>とまど</sup> 戸惑った<sup>かん</sup> 感じを<sup>いだ</sup> 抱いて<sup>いま</sup> いました。これを<sup>みな</sup> 皆さんに<sup>share</sup> シェア<sup>できる</sup> できるのは、<sup>わたし</sup> 私にとって<sup>ありがた</sup> ありがたい<sup>機会</sup> 機会<sup>でした</sup> でした。スピーチ大会<sup>が</sup> が<sup>お</sup> 終わって<sup>すで</sup> 既に<sup>かげつ</sup> 1ヶ月が<sup>す</sup> 過ぎました。今でも<sup>かんきやく</sup> 観客席の<sup>みな</sup> 皆さんの<sup>ひやうじよう</sup> 表情を<sup>せんめい</sup> 鮮明に<sup>おぼ</sup> 覚えて、<sup>わたし</sup> 私の<sup>はなし</sup> 話を<sup>しんけん</sup> 真剣に<sup>き</sup> 聞いて<sup>く</sup> くれる<sup>こと</sup> ことが<sup>わか</sup> わかって、<sup>すご</sup> すごく<sup>うれ</sup> 嬉しかった<sup>です</sup> です。

ステージに<sup>あ</sup> 上がる<sup>まえ</sup> 前に<sup>げんこう</sup> 原稿を<sup>す</sup> すっかり<sup>むね</sup> 胸に<sup>きざ</sup> 刻んで<sup>いま</sup> いました。これは<sup>鈴木</sup> 鈴木先生<sup>のおかげ</sup> の<sup>おかげ</sup> かげ<sup>でした</sup> でした。

大会の1ヶ月前から週に2回Zoomで練習をして発音を修正してもらったからです。このスピーチ大会を通じて、新しい友達もできたり、異文化にも触れられたりしました。他の発表者のパフォーマンスは優れて、内容は面白かったです。来場の先生達は親切で優しく、いろいろ勉強になりました。

## 登山で広がる留学の楽しみ

横浜国立大学大学院 范均傑 (中国)



私は中国からの留学生で、登山が趣味です。今年日本に来て、高尾山や御岳山などに登り、日本の自然や文化を満喫する素晴らしい経験をしました。四季折々の風景や登山後の温泉、美味しい食事が特に印象に残っています。

9月には高尾山に登りました。一人旅だったため、自分のペースで登山を楽しむことができました。ケーブルカーを使わずに歩いて山頂を目指し、途中の自然豊かな道を進む中で、心地よい風や木々の香りを感じました。少し汗をかきながら山頂に到着すると、目の前に広がる景色に感動しました。その後、山頂でアイスクリームと団子を味わいました。冷たいアイスが登山の疲れを癒してくれ、団子の素朴な甘さが心を満たしてくれました。一人で静かに過ごした時間は、自然と向き合いながらリフレッシュできる貴重なひとときでした。

11月下旬には、御岳山で日本人の友達と紅葉狩りを楽しみました。山全体が赤や黄色の鮮やかな色に染まり、特に御岳神社への参道は神秘的な雰囲気にも包まれていました。友達と一緒に歩きながら、紅葉の美しさや自然の雄大さを語り合った時間は、一人旅とはまた違う楽しさがありました。登山を終えた後は近くの温泉に入り、冷えた体をゆっくりと温めました。温泉でリラックスした後、地元の山菜料理をいただきました。新鮮な食材で作られた料理はどれも美味しく、自然の恵みを感じられる贅沢な食事でした。

日本での登山は、単なる運動や観光ではなく、自然の美しさを味わいながら文化や食にも触れられる特別な体験です。高尾山での一人旅では静けさと達成感を感じ、御岳山では友達と賑やかに共有する楽しさを味わいました。それぞれの山で違う魅力を感じながら、日本の自然に感謝の気持ちが芽生えました。これからも日本各地の山々を訪れ、季節ごとの美しい風景や地元の魅力を発見していきたいと思っています。

## My first Japan experience

横浜国立大学大学院 FLORES, ELIZALDE MIGUEL SALAZAR (フィリピン)



Hello, Japan!

It has been four months since I set foot in this beautiful country, but I am still amazed by the scenes and sights around here. A couple of years ago, I did not think about moving to a new country as I was determined to study in the Philippines. I was already accepted in a university there last year and I planned to defer the start of my master's studies for the next semester. But I believe fate brought me here for a reason.

The application process was not that easy though; I had to fly back and forth from my city to Manila, where the exams and interviews were done. I also had to send and fill out documents and prepare my research plan. Ah, research – we'll talk about this in a while. But anyway, I thank God I was qualified here and I never expected this to happen during that time. As I prepared for the next two years of my life, I started learning



Japanese. “こんにちは、元気ですか。” was one of the first phrases I knew. This continued until arriving in Japan, which brings us to August 25<sup>th</sup> – the day which, for the first time, I went abroad.

I remembered the meal served to us on the plane – it was a traditional *bento* with rice, chicken, fish, vegetables, and salad. It was a great way of welcoming us here and I was so excited for things to happen. For two weeks we stayed in Tokyo for orientations and Japanese classes in which we met several friends in the same scholarship program as ours. We explored the skyscrapers of Shinjuku, the bustling Shibuya scramble crossing, the shrines of Ueno and Asakusa, and interestingly, a cat café where you can enjoy playing with furry friends while sipping a cup of coffee.

Time went so fast that we had to go to our respective universities. In our program, I was the only Filipino bound for Yokohama. However, I was blessed to meet my *senpais* and batchmates who helped me cope with university life. One of them even handed over several of his household appliances to my apartment and gave me helpful tips for my studies. I am also thankful to my Japanese tutor and coordinator who helped me in the moving-in process, and until now we still meet at the university for a special project.

Soon, the first day of classes came. I was shy at first to talk with other Japanese and international students but eventually, I had the courage to start a conversation with them. I also met my academic supervisor who gave me the necessary resources in conceptualizing my research topic. My colleagues in the coastal engineering laboratory also gave us a warm welcome through food and socialization and are always open if we have any questions or concerns. I admire the hospitality and support of the people in my university.

The environment around the university was also welcoming and pleasant. I like to stroll around with my friends and appreciate the nature hidden in the middle of sprawling houses and commercial areas. Biking is also an efficient way for students and even the faculty to get to the campus aside from it being a leisure activity. All around the campus, you can see clean sidewalks, buildings, and roadways, and are properly maintained thanks to the university’s maintenance team. The area outside is walkable too as I enjoy passing these roads when I buy groceries or run some errands.

As happy as it may seem, not everything is a walk in the park. Even though I used to live independently back home, it still feels different. Sometimes I feel homesick and wonder how my family and friends are doing. I also need to keep up with my academic requirements since it has been four years that I have not experienced being a student. Also, I learned how efficient but rigorous their culture is when it comes to research. Every week I should be able to come up with a progress report but also not everything is handed over to me on a silver spoon. I must work hard every day to finish my studies and to thrive in this new country that I am in with all smiles and hope for the future.

But as my friends would say, “Just take it slow”. Maybe I am too much of an overthinker for this. Yes, I need to prioritize my education here, but it would be pointless if I never even explored this beautiful country in the process. It’s the journey that matters after all. And while we’re at it, I want to write all my thoughts some more. A book may be too much, but we’ll see. This will be an amazing run.

## よこはま夢ファンドのご案内

横浜市には、ボランティア団体の支援を目的とした“よこはま夢ファンドの制度”があります。このファンドを通じて RKK の留学生支援活動をご支援をいただくことができます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

税制上の優遇措置などの詳細は **よこはま夢ファンド** で検索してください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/shiminkyodo/shien/yumefund/>



## 留学生支援・交流

### 日本語支援を通して学んだこと

北地区交流会 萩谷 正治



これまで何人かの留学生と日本語支援を中心に色々な形で交流を行ってきました。留学生と交流したい理由は概ね2つです。一つは、留学生に日本語という言葉を通して、日本とその文化を知ってほしいこと。もう一つは、留学生の国のことを少しでも知りたいということ。単に日本語を機械的に教えるのであれば、オンラインで十分だと思いますが、文化をある程度理解しないと言語を通しての相互理解は難しいと思っています。そのため、時間に余裕がある時は、留学生と食事をしたり、近郊の観光地巡りをしたりしています。食事や観光には宗教も絡んできますので、日本の神道や仏教のお話を通して宗教感の違いを相互理解するように努めています。例えば、食事

にしても日本人の場合は、アレルギーと好き嫌いだけで、原則何でも食べることができますが、世界には宗教上などの理由で食べ物に制限がある人が多くいます。そういったことが日本に居ながらにして学べるのは素晴らしいことだと思います。

横浜国大だけでも千人以上の留学生がいると聞いています。私は、今までに中国、パナマ、パラグアイ、ネパール、オーストリア、パキスタンなどの留学生に日本語支援という立場で接して、たくさんのことを学ばせてもらいました。例えば、パラグアイは南米の小さな国ですが、名前と大体の場所しか知りませんでした。しかし、パラグアイの留学生に日本語支援をすることでパラグアイについても知ることができました。RKKは、「留学生と語り合う会」という名称ですので、日本語支援においても、その名称と理念に沿って「留学生と語り合い」ながら相互理解を深めることを念頭において日本語支援をしようと心がけております。

### 秋日雑感

湘南地区交流会 猪瀬 章子



秋の一日、房総半島を訪ねました。丘陵地帯の間に広がる一面の黄色い田圃。稲刈りは既に終わっています。日頃、目にする事の無い光景が印象的でした。こういう田圃を何とかとのガイドさんの問いかけに誰も答えられません。私も昔友人と旅行した時教えてもらった事を思い出したのですが、肝心の名前は忘れていました。

ひつじ田、漢字では禾偏に魯と書きます。俳句をなさる方にはお馴染みの様です。ひつじとは稲を刈った後に出る二番穂のこと。辞書によると、魯の魚には役立たずという意味があるようで、役立たずの稲の事かと漢字には納得。ひつじは古くはひつちと言ったそうですが、どこからこんな言葉が生まれたのか、日本語の方が謎です。

退職後にしたかった事の一つが日本語の勉強でした。日本語学校で習う外国語としての日本語は新鮮でした。文法のみならず発音も歴史も勉強するのが楽しかったです。RKKに入会した動機もその辺にありました。

RKKの会員になって約20年。その間に6人の方の支援をしました。湘南地区では当初社会人も引き受けていたので、留学生は2人だけ。一人は元留学生で、日本企業で働く夫について来日。東大大学院で心理学専攻、独学でN1合格している優秀な中国人女性でした。当時は中国経済成長著しい時期で、中国社会の事情やら時には漢詩の話題で話が弾みました。就活支援もしましたが上手く行かず帰国。彼女の言葉で印象に残っているのは、日本のお年寄りはどうしてこんなに活発にボランティア活動をしているのかと言うのです。私の父は一日テレビを見て過ごしているとも。10年程昔の事なので今はどうですか。

もう一人はモロッコからの男性。話す事は既に流暢で、スピーチ大会にも民族衣装を着て出してくれました。

彼との交流はイスラムを知るとても貴重な機会になりました。

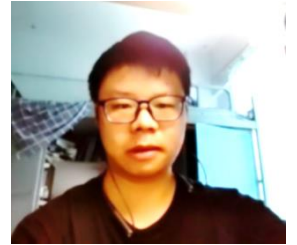
久しぶりにスピーチ大会を聴きに行きました。若者達の異文化に触れた時の新鮮な驚きが伝わってきました。その中で閻さんの架け橋という言葉を実感したとの言葉が心に残りました。世界は急速に変化しますが、科学技術が進歩しても変わらない部分も有ります。異文化交流こそ世界平和に欠かせない事だと思います。

## 私の日本語支援

中央地区交流会 畔取 孝

私が日本語支援をしてきた留学生は、ほとんどがN1取得者でした。今回、はじめて日本語を学び始めた中国からの留学生を紹介されました。はじめての経験ですが、日本語の発音練習をしていて気がついたことをお伝えしたいと思います。

2024年の夏に日本語学校に入学した陳楊さんを担当することになりました。日本語のレベルは初級レベルです。教材をどうしようかと思っていたのですが、彼自身が用意した「NHK やさしい日本語」を利用することになりました。日本語学習は主にオンライン Zoom で、日本語の発音練習をすすめています。使用しているテキストの日本語の会話には、きちんと中国語訳とローマ字表記が記載されていて日本語の意味の理解や発音練習に役立ちます。



【陳楊さん】

素晴らしい教材だと感心していましたが、実際に発音を何回か聞いていくうちに微妙な違いに気がつくようになりました。それは、日本語の「し」を「shi」、「・ちゃん」を「chan」と表記され部分でした。中国の人にとって、この発音はすべて「反り舌音」で発音しています。「反り舌音」は舌先を後ろにそらせて発音する方法で、日本語にはない発音方法です。

私は、以前 RKK 中国語講座を受講して中国語の発音練習をしましたが、その中で重要な発音である「反り舌音」に苦労していました。反対に中国からの留学生にとっては、この「反り舌音」が日本語の発音習得の障害になっていたのです。そのため、日本語には「反り舌音」がなく、舌を反らせないように図を使ったりして説明し、違いを理解してもらうように努めました。日本語学校の指導もあるかと思いますが、効果は少しずつ出てきています。思わぬところでローマ字表記の難しさを感じた次第です。

## 留学生の皆さんへ / For International Students

Let's join one-on-one Japanese language teaching program by volunteers.

- ・ 日常会話 (Daily Conversation)
- ・ ビジネス会話 (Business Conversation)
- ・ 卒論、レポートの文書支援 (Writing Japanese Theses & Reports)
- ・ 新聞／書籍等に読解 (Reading Newspaper & Books)
- ・ 日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test)
- ・ 就職活動 (Job Hunting ・ Entry sheets/Interviews)



Enjoy visiting plants/ laboratories and participating in various cultural exchanges.

Contact : 津田(Tsuda) e-mail; [sakura\\_tsudakei@yahoo.co.jp](mailto:sakura_tsudakei@yahoo.co.jp)

Website : <https://sites.google./view/newrkk>



## 横浜国大 IMP 留学生の研究発表会に参加

文化・ファミリー交流グループ 徳屋 英生

2024年9月2日、2年間の留学を終えて帰国するIMP17期の留学生4人の研究発表会がハイブリッド形式で開催されRKKより6人がZoom参加しました。(注)IMP; Infrastructure Management Program

・アフガニスタン出身のAldullah Jamalさんは同国における電力事情改善、  
・タンザニア出身のWilliamさんは水道供給システムについて、  
・インド出身のKumarさんは交通機関の改善について、  
・インドネシア出身のSunartoさんは沿岸地域のスラム街改善について、夫々興味ある研究が発表をされました。なお、JamaさんとSunartoさんは当会会員でした。14期生のDiahさんがzoom参加されインドネシアでエネルギー関係について活躍されている報告がありました。



## 横国大 IMP 新入生歓迎会に参加

文化・ファミリー交流グループ/会員委員会 萩原 敦

2024年11月28日に開催されたYNUのIMP Welcome Partyに津田さんと一緒に参加しました。

久しぶりの歓迎会で、留学生約15人、教職員約15人、関係団体3人とRKKからの2人で約35人の出席者でした。IMP運営委員長、IMPディレクター、そして昔なじみの先生方とも挨拶ができました。

今年のIMP (19th Cohort)の新入留学生は2人で、昨年 (18th Cohort)5人から減っています。ただ、IMP (世界銀行) 以外のJICAやMEXT (文部科学省) の奨学金でCivil Engineering (土木技術) に入学した留学生も参加していました。

本年9月以降にRKKに登録したCivil Engineeringの留学生は7人になりますので、IMP事務室スタッフのみなさんには、深く感謝するしだいです。



## 外国語学習

### Xin Chào こんにちは

外国語学習グループ (ベトナム語講座) 萩原 敦

早いもので、RKKがベトナム語講座を始めて3年も過ぎてしまいました。最初からクラスに参加し、ほぼ毎週、ZOOMで勉強していることから、ベトナム語で会話もできるようになったかと思いますが、実は、まだまだ、全くの初歩のレベルにとどまっています。

ただ、ベトナム語を学ぶことの楽しさとベトナム文化を知ることの楽しさを満喫しており、Huong先生の苦労も省みず、日曜日の午前には、ベトナム語クラスに参加し、皆さんと和気あいあいの時間をすごしております。「新しいことへの挑戦は若さを保つ」と言われ、70歳半ばからの外国語学習への挑戦ですが、記憶力の低下を身にしみて感じ、覚えては忘れの繰り返しです。しかし、なにもしなければ忘れるばかりですので、学び続けることで、脳の活性化には貢献しているのではと、気楽な気持ちで学んでおります。

RKK文化祭のベトナム語講座コーナーには、ベトナムの文化を代表する手芸品や食品を並べ、パソコンでも観光地、料理などを紹介しました。言葉を学び、文化を知ることが、異文化理解の要ですね。一緒にベトナム語講座に参加しませんか!



## なぜ中国語学習を続けているのか

外国語学習グループ（中国語講座） 鈴木 隆

もう十数年も昔に思い立って中国語を習い始めた時の動機は、将来仕事にも役立つかもといった、いささか功利主義的な面が大きかった気がする。しかし言葉の壁にそんな野望はすぐに打ち砕かれ、そのうち中国旅行の時に使えればという、ありきたりの動機に変わっていった。その願望もコロナ禍を経ていつしか立ち消えとなり、数年前までは、中国人留学生との会話のきっかけに簡単な中国語を使ったりしていた。それもここ最近では中国人留学生を支援する機会が減ってきて特段の期待がある訳でもない。相変わらず初級レベルから抜け出せないままだが、それでも何故か今だに中国語講座に参加している。



以前日本語支援していた元留学生から、最近ちくま新書の「闇の中国語入門」という本を献本して頂いた。著者は彼女の夫であり、お二人とも早稲田大学で文学博士号を取得している。教科書的な表現ではなく、ネットで拡散されるネガティブな表現にこそ現代中国の若者達のリアルな心情が表れているといい、現代中国の文化論ともなっている。ただこんな事を書いて大丈夫かいな、とちょっと心配にはなったのだが。その中では多くの例文があり、読んでみると、勿論難しい単語や新出の単語は分からないけれど、一応の勉強はしてきたお陰で訳文を見なくともある程度の理解は出来るのだ。これには少し嬉しい気持ちになった。

中国はこれからも付き合っていかなければならないお隣の国である。日中関係は難しい問題もあるがそれも数十年レベルの話で、千数百年にわたる長い文化的な繋がりを鑑みれば言葉を学ぶ事は決して無駄な事ではないだろう。かの国の言葉を少しでも理解出来れば相互理解の一助となるかもしれない。最近ではそれをモチベーションとしている。

## 委員会情報

### 生成 AI (COPILOT) の活用

ICT 推進委員会 永作 重夫

生成 AI を活用して業務の効率化を図る流れがビジネスで進んでいます。利用されている方も多いかと思えます。マイクロソフトの進化したソフトである COPILOT が Windows 11 に常備されており、使いやすいソフトとして以下に紹介します。

生成 AI では、情報入手、文書作成、要約、企画書作成、翻訳、画像作成、プログラム作成などが可能です。ボランティアの立場から言えば、特に情報入手が使いやすい機能だと思います。

プロンプト（指示/質問）の工夫次第で、単純な回答から複雑な回答まで得ることができます。ただし、それらの回答が本当に正しいかどうかは検索して確認する必要があります。（100%正しい答えが返ってくるわけではありません。）

以下、一例としてプロンプトを作成し、その回答を提示します。

プロンプト: あなたは日本語教育の専門家です。留学生の日本語、日本語会話のレベルアップを図るための施策を箇条書きで、800字以内で提示願います。

回答: 留学生の日本語会話教育をより良くするための施策

1. カスタマイズされたカリキュラム；
  - 個々のニーズに対応：学生一人ひとりの日本語レベルや興味に合わせた授業内容を用意します。
  - 具体的な目標設定：学生の進捗に応じて短期・長期の目標を設定し、達成度を測る。
2. インタラクティブな学習環境；

- 会話パートナー制度：日本人学生やボランティアとペアを組み、定期的に会話練習を行います。
  - グループディスカッション：小グループでディスカッションを行い、実際の会話を通して学ぶ。
3. 実践的な学習機会；
- フィールドトリップ：地域のイベントや観光地を訪れ、実際の場面で日本語を使う機会を提供します。
  - ロールプレイ：日常生活のシチュエーションを設定し、役割を演じる練習をします。
4. テクノロジーの活用；
- 言語学習アプリ：Duolingo や Anki などのアプリを利用して、自主学習を支援します。
  - オンラインプラットフォーム：Zoom や Google Meet を使用して、リアルタイムでの会話練習やディスカッションを行います。
5. 文化理解の促進；
- 文化イベントの参加：日本の伝統行事や文化イベントに参加し、日本語だけでなく文化も学ぶ機会を提供します。
  - 映画やドラマの視聴：日本の映画やドラマを観てリスニングスキルや文化的背景を学びます。
6. 定期的なフィードバックと評価；
- 個別フィードバック：授業後や練習後に具体的なフィードバックを提供し改善点を指摘します。
  - 自己評価と反省：学生自身が自分の学習を振り返り、改善点を見つける機会を設けます。
7. サポート体制の整備；
- メンタルサポート：留学生のストレスや文化的な違いに対するサポートを提供します。カウンセリングやサポートグループを活用します。
  - 学習リソースの提供：ライブラリやオンラインリソースを整備し、必要な情報や教材に簡単にアクセスできるようにします。

このように、生成 AI を活用することも情報整理の一環として活用できると思います。

## 地区からのたより

### 笑顔に包まれた地区スタッフの懇談会

北地区交流会 松井 直子

スタッフミーティングの後の地区スタッフの懇談会はすっかり定着してきました。今回は7人の方々のご参加があり、お話もはずみしました。この交流会が楽しいものになり、すこしずつその成果が出始めている感じもしました。

話し合いの主な内容は、

- ・メーリングリストは今後も地区の活動情報などを一斉に送信できるメリットがあるので、個人情報には留意しながら今後も活用していく。
- ただし、その情報を地区会員全員に流すかどうかはその地区の状況もあり、地区の判断に任せる。
- ・東と中央地区の合同の交流会は一步前進した形として今後も継続し模索していく。またそこで研修した内容はなんらかの手立てで他地区にも知らせ、知識の共有化を図っていく。どの地区も交流会の参加者が少なくなっているという切実な課題をかかえながら、写真のような笑顔の懇談会になりました。

会員の皆様も是非私たちの報告をお聞きになり、地区交流会と一緒に盛り上げてくださいますようお願いいたします。





## はじめての合同交流会の開催について

中央地区交流会 畔取 孝

2024年12月14日(土)午後、かながわ県民センターで東区と中央地区で合同の交流会を開催しました。

きっかけは、2024年9月に県民センターで開催した中央地区交流会において、参加者を増やすためには興味のあるテーマを決めて交流会を実施したらとの提案があり、実施するなら合同での話しにまで発展し、ちょうど参加されていた東地区スタッフの方からも賛同を得られたことにあります。特に東地区も県民センターで交流会を開催可能なことも実施する上で大事な条件になりました。



開催にあたり、まずそれぞれの地区からテーマ案を出し、その中から中央地区から提案した「ムスリム」に確定しました。合同交流会は、はじめての取り組みであるため交流会の前半をそれぞれの地区で今までどおりに行い、後半を合同で開催し、その後に懇親会を行うという無理のない内容としました。合同交流会のテーマ「ムスリム」については、ヨルダンでの駐在経験もある村田さんが担当しました。内容は、ムスリムの誕生からスンニ派とシーア派の違い、ムスリムの食事・礼拝、習慣の違いなどを現地駐在の経験も含めてお話しをしていただきました。RKKの留学生にもインドネシアなどムスリムの留学生もいますので、実際に役立つ内容でした。さらに、その後の懇親会でも引き続き質疑応答が続き、楽しいひとときを過ごしました。

今回の経験を受けて、引き続き2025年3月に合同交流会開催を検討することになりました。テーマは「就活を希望する留学生への向き合い方(仮称)」で、東地区の田中さんが担当されます。田中さんは留学生の就活指導の実績が豊富です。日本で就職をする留学生も増えてきていますので、われわれ会員にとっても大いに参考になるものと楽しみにしています。

## 西地区からの便り 一年を振り返って

西地区交流会 小島 明子

4月21日に今年度第1回の地区交流会が開催され9人の参加がありました。

西地区としては「多くの会員が何らかの形で留学生を支援できるようにしていきたい。また会員が会の運営に参加して楽しめると良い。」という計画を立てました。お花見会には多くの西地区会員に参加していただき良かったです。

皆さんが留学生との交流を楽しまれていました。今年はRKK創立25周年なので皆さんとたくさん語り合っただけで前進を目指した活動が出来るよう確認しました。

- ・7月21日に第2回の地区交流会が開催され10人の参加がありました。

RKK創立25周年記念誌発行にあたり、当地区チューターのご協力のもと18人の留学生が寄稿してくれました。

- ・6月16日には富志乃さん主催の「お箏と日本舞踊の会」があり、留学生のテレサさん(イタリア)がお箏に出演。
- ・7月6日の「ひらつか七夕祭り」に西地区から多くの会員と留学生が参加。
- ・RKKフェスティバルについてアイデアを出し合いました。今年は中国語学習グループとベトナム語学習グループが何らかの形で参加するという案が出ました。

「コロナがまた流行っているので注意しましょう!」との注意喚起がありました。

- ・10月20日に第3回の地区交流会が開催されました。東地区の鈴木隆さんをお迎えして総勢6人の参加と少数でしたが和やかな会となりました。留学生の中にはお国事情により将来の定住地についての悩みがあることが分かりました。

RKK活動が少しでも留学生に寄り添って、力づけられる会になればと思います。社会見学会、お花見会や

七夕祭り等の行事に参加し、留学生との会話の機会が増えることを願っています。

- ・10月6日に北地区主催の「里山ガーデン Outing」があり、当地区から5人が参加して交流を深めました。他地区との交流で新しいお仲間との出会いも楽しいものとなりました。

これからもこのような交流の機会があると良いと思いました。

## 南地区交流会情報

南地区交流会 永作 重夫

2024年は6月と9月に対面で交流会を行いました。次回は2025年1月に予定しており、年に3回のペースです。2024年4月の時点で南地区には13人がいましたが、5人が退会したため、現在は8人です。12月の時点でも増えておらず、これが最大の課題です。9月の交流会には8人中4人が参加しましたが、人数が少なくして少し寂しい状況です。南地区のRKK会員を増やすことが大切です。

### 1. 交流会の活性化

参加者が高齢化しており、今後の活動が心配です。このままだと高齢化によりRKKメンバーが減ってしまう可能性があります。どうやって60歳代の方々に入会をアピールするかが課題です。昨年からリーフレット配布やスマホWEBの新規投入を行ってきましたが、まだ大きな効果は見られていません。今後の進め方やRKK内での議論が見えないという指摘がありました。

- ・もっと多くの意見を集め、議論するべきです。少なくとも向こう3年間の目標を立て、具体策を検討する会議を設定してほしいというコメントもありました。
- ・「RKK全体懇談会」などの名称で、課題を設定して誰でも参加できる会議を設けてはどうでしょうか。各地区の交流会でも議論されていると思うので、それらの情報を整理し、RKK会員の増加をみんなで進められたらと思います。

### 2. 留学生の人数増加対策

リーフレット作成やWEBサイトの拡充を図ってきましたが、以前のレベルには戻っていません。入会する留学生にRKKを選んだ理由を聞くと、ほとんどが先輩や友達からの推奨でした。これは良いことですが、単独の方々にもRKKを認識してもらう対応が必要です。

- ・中国からの留学生が減り、他地域からの留学生が増えているため、単純にN1やN2レベルの日本語教育をバックアップするだけでなく、違った切り口でRKKの活動を考えるべきだというコメントがありました。
- ・大学の留学生だけでなく、日本語学校の方や社会人への対応など、窓口を広げることも真剣に考える時期です。

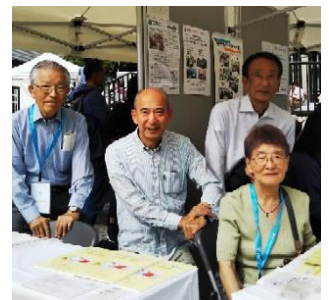
具体的な課題設定には至っていませんが、今後のRKKの活動の活性化について議論を続けています。

## 湘南地区たより

湘南地区交流会 坪井 弘喜

### 藤沢国際交流フェスティバル

10月に藤沢市主催の「藤沢国際交流フェスティバル」に参加した。昨年同様、RKKパネル展示やリーフレット、RKKニュース、20周年記念誌などをテーブル上に準備し、ブースを訪れる方々に対応した。今回は日本語支援ボランティア団体の参加数が少なく、共有テント内のスペースに余裕があり、また市役所に要請していた談話の為の丸テーブルがテントの外に設置されており、適宜活用出来るようになったのは前進である。市役所との定期会合は年2回あるが、この会合に参加することにより、市のホームページ並びに日本語ボランティア10団体の概要をまとめた小パンフレット(MAP)が別途作成される。



この情報に基づき日本人や外国人から連絡スタッフ宛に RKK に関する問合せ、加入するにはどうすればいいか、など電話が入ることがまあり、新しい会員や留学生の加入のためのツールとして副次効果があるので、今後とも参加は継続すべきであろうと考えている。今回は 7 人の会員が会場で適宜対応して頂いた。感謝申し上げたい。

#### 活動グループへの支援

湘南地区では、毎年七夕祭りの交流会会場の予約手続きについて協力しています。RKK が平塚市の団体ではないので、利用会場に直接予約申し込めず、上部機関の平塚市役所と折衝します。

このたび来年度の“ひらつか七夕まつり”の期間に交流会場の予約に関連し、平塚市役所に開催内容の説明や打合わせをし、市役所を通じ中央公民館の予約（7月5日）を得ました。文化・ファミリー交流 G に報告しました。七夕祭りの盛会を期待します。後日、開催状況を平塚市役所に報告します。

### おもな活動（2024/11 から 2025/1 まで）

事務室 鈴木 隆

#### 理事会・スタッフミーティング

- ◇12/22 に 2024 年度第 2 回理事会および第 3 回スタッフミーティングを開催。合計 17 人のスタッフが参加。2024 年度重点活動目標を踏まえて、C&C（報告、連絡、相談）および RKK フェスティバル（日本語スピーチ大会、文化祭）の報告と話し合い、RKK 創立 25 周年記念事業「留学生 50 人の声」プロジェクトの報告と話し合いの実施。地区スタッフ懇談会も実施して各地区間の課題を話し合った。

#### 活動グループ

- ◇日本語支援 G：11/23 に開催した RKK フェスティバルで午前中に日本語スピーチ大会を実施、5 人の留学生に参加した。また YouTube で動画撮影して配信した。12/10 には YNU スピーチ大会に 3 人が参加した。
- ◇文化・ファミリー交流 G：RKK フェスティバルで文化祭を開催。会員の作品（写真、絵画等）の展示、Workshop を設置。留学生のお国紹介では 5 か国の留学生が参加。
- ◇外国語学習 G：中国語講座(9 人受講)は Zoom によるクラスに加え、12/28 に対面クラスと忘年会を実施。ベトナム語講座(9 人受講)を Zoom で実施。RKK 文化祭ではベトナム文化紹介の Workshop を設置。
- ◇社会見学 G：9/19 第 82 回見学会で国会議事堂と警視庁を見学予定だったが、都合で 3 月 5 日に延期。

#### 地区交流会

- ◇東地区：12/14 にサポートセンターで交流会を実施、他地区含め 7 人が参加。後半に中央と合同交流会実施。
- ◇西地区：10/20 にフレンズ戸塚で交流会を実施。他地区会員も含め 6 人が参加。
- ◇南地区：12/14 に東と中央の合同交流会に参加。1/26 に対面式で交流会を実施。
- ◇北地区：10/6 に里山ガーデンで散策。留学生 3 人含む計 11 人が参加。東と中央の合同交流会にも参加。
- ◇中央地区：12/14 にサポートセンターで交流会を実施して 5 人が参加。後半は東と合同交流会を実施。
- ◇湘南地区：12/14 に交流会を実施して 4 人が参加。記念誌も配布。10/27 に藤沢国際フェスティバル参加。

#### 委員会

- ◇会員委員会：新規入会受入れ窓口、会員名簿更新管理、マッチングの推進。
- ◇広報委員会：RKK ニュース 98 号の編集、1 月末に pdf で配布。RKK HP, Website の更新。
- ◇キャリア支援委員会：会員からの個別の要望案件への対応。
- ◇企画委員会：25 周年記念プロジェクト助成先との窓口業務。12/4 に記念誌配布、12/8 に交流座談会実施。
- ◇会計委員会：収支決算、立替支払処理。
- ◇ICT 推進委員会：G-mail の活用方法の検討。グループメールの活用推進。
- ◇事務室：会議室予約管理。会計処理の承認。理事会、スタッフミーティングの準備と運営。

#### 創立 25 周年記念事業「留学生 50 人の声」プロジェクト

- ◇記念誌「留学生 50 人の声」の発行。留学生と市民との交流座談会を実施。



新入正会員の皆さま：よろしくお祈いします！

村越 淳子（横浜市泉区） （敬称略）

## 会員募集中



留学生と一緒に国際交流を楽しみましょう。RKK では下記のプログラムを用意していますので、皆様のご希望に合わせて留学生と様々な支援・交流ができます。

- ・ **日本語学習支援** （留学生と一対一で日本語の勉強、会話をします。）
- ・ **文化・ファミリー交流** （フェスティバルを開催し、異文化交流を深めます。）
- ・ **社会見学** （工場・公共施設見学、名所・旧跡をハイキングします。）
- ・ **外国語学習** （留学生を先生として、中国語、ベトナム語を勉強します。）

R K K の活動に興味をお持ちの方はRKKのホームページをご覧ください。  
入会申し込みは、ホームページ「入会案内」（下記ご参照）から入手できます。



## NPO 法人 留学生と語り合う会

連絡先：〒245-0008 横浜市泉区弥生台 9-1-12-407 萩原 敦

eメール：[rkk1025office@yahoo.co.jp](mailto:rkk1025office@yahoo.co.jp) Tel & Fax: 045-813-8327

〔Website のご案内〕

PC の場合； [npo rkk](http://npo.rkk) により検索、または <http://rkk.world.cocan.jp/> をクリック。

スマホの場合； <https://sites.google.com/view/newrkk> をクリック、または、QR コードを利用。

**Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers**

RKK ニュース編集：RKK 広報委員会（新年号担当） 深水智明 Jan.25.2025

無断転載をお断りします。

